

## 第5回(仮称)彦根市新市民体育センター建築設計検討委員会



日時 : 平成 29 年 10 月 2 日(月)

10:00~12:00

場所 : 大学サテライト

プラザ彦根 ABC 会議室

出席者: 別紙の通り

### 1. 議事

#### (1) 平面計画について

委員長: 参考資料「弓道競技団体との協議経過」に、弓道連盟会長の発言で、「市内若年層の弓道人口の増加などを鑑みると施設計画は決して過大ではない。」とある。この発言をもって、会長が施設計画は過大ではないと判断したということを確認し、了承したいと思う。

委員: メインアリーナの大型映像装置はイベント主催者が持ち込んで設置することになるのか。吊荷重などは見込んでいるのか。

事務局: 設置できるように荷重も見込んだうえで設備は整えたい。

委員長: 概算費用は実費と大きな開きがある。特に、公共建築物のコストは過大の値が付きやすいため厳しくみなければならない。

1 ページ、平面計画に自転車動線を示されたが、交流ストリートという一番重要な空間に放置自転車が増えないよう、動線計画と合わせて管理することが重要になる。

委員: 運用が重要ではないか。大勢の自転車での来場が見込まれる場合、主催される大会関係者と十分に調整し、運用において、最初に習慣づけをすれば、以降は整然と駐輪してもらえるものと、現状の利用状況から思う。

委員: 自転車の出入り口として、地元の方は、東側の歩行者動線のみ示されている道を多く利用される。くすのき通りについては、信号設置の問題があるが、地下道の利用もある。通学路になっており、通学時間に自転車が通り子供と接触し怪我をさせたこともある。地下道自体、自転車が通りにくいので、含めて検討いただきたい。それと、時間によって閉鎖はしないのか。駅に近いので、駅利用者の車や自転車での乗り入れが多いのではないかと。昔ビバシテ

ィでは、暴走族が夜中に走り回っていたこともあり、検討いただきたい。

委員長：今使われている自転車の動線をどうするか、次回に回答いただきたい。

委員：展示コーナーは、検討を繰り返し具現化できているのでありがたいと思う。150 弱㎡ほど確保されており、市民のグループ展などは出来ると思うので、規模は問題ない。レイアウトは、一般的な展覧会の様に、口の字型にパネルを連結し、足りない場合は袖をつけることが出来るようお願いしたい。市民会館を廃止した場合の計画はすでに進行しているのか。

委員長：ここは一般的なギャラリーではなく、ロビーを使っている。もともと二つの施設を利用する人たちが交流する場として作った空間に展示することで、普通だったらギャラリーに入らないような人たちも見に来て興味を抱いてくれるというコンセプトがあったかと思うが、展示会色が色濃くでると、交流を謳う空間を囲い込んでしまうことにならないか。

委員：このレイアウトでは展示できない。パネルを切って並べるとスペースが制約されてしまい展示点数が減る。人が通るとどうしても散漫になってしまう。最初申し上げたのは展示場のイメージだったが、次第に折半型のような形となってしまった。展示する側も観る側にとっても、展示する空間をしっかり作りこむ必要がある。環境というものを大事にしていきたい。

コンサル：展示コーナーについては、ロビー展示として考えてきた。もともと文化芸術に興味がない人でも気軽に展示に触れることが出来る、交流の中心的なものとして作ることが出来ればと思う。細かな展示は多目的会議室を借りていただくことを考えている。

委員長：文化施設としての利用をどうするか根本的な点である。そもそも燦ばれずでは、急速に増えた労働者の労働環境の改善を担う中で、その生活環境の改善として、文化や芸術も進めてこられた。今まで体育施設に議論が集中する傾向にあったが、文化芸術の拠点としての燦ばれずをどう維持発展させていくかという議論もしなければならない。今後、勤労者が減る中で、これから労働者の、文化芸術活動をどうしていくのか、といった観点が議論になってくるのではないか。

委員：展示コーナーは遮蔽して使えないのであれば、多目的会議室を使うしかないが、会議室は通常使用されているので、一週間もの期間をとることは難しく、実際はなかなか使えないというイメージを持っている。

事務局：展示コーナーではロビー展示を考えている。多目的会議室は事前に予約していただければ、一週間連続して使うことも可能ではないか。展示コーナーのパネルはあくまでもイメージであり、利用者の創意工夫で検討いただきたい。また、パネルの収納場所としての倉庫も、2階交流棟にて考慮している。

教育部長：資料に記載しているように、公共施設等総合管理計画の個別計画となる、文

化施設の計画の中に市民会館も含まれており、遅くとも年内、できるだけ早く個別計画の素案を取りまとめ、公表したい。市民会館のギャラリー機能も確実に方針付けし、明確にしていきたく考えているため、ご理解いただきたい。

委員：わかりました。

委員：ケースに応じた使い方を具体化されると解消されるのではないか。例えば、多目的会議室の机や椅子、展示コーナーのパネルがどう収納されて使われるのか、議論されたほうが良い。展示コーナーに面した多目的会議室の壁がL型で閉じているが、開放できるようになると一体的に使えるのでは。

委員：そもそもの話に戻して悪いが、体育と文化ではなく、体育と勤労者福祉がスタートではないか。燦ぱれすで行われている健康運動系の教室についても十分意識してこれまで意見申し上げてきたつもりだ。そもそも燦ぱれすは勤労者福祉施設であり、文化も運動系の活動も混在している施設。基本的なコンセプトを抑えておかないと何時まで経ってもこの議論は結論が出ないような気がする。

委員長：そういうことが懸念されたので、前回までに体育館と燦ぱれすから利用実態を提供いただき、指摘があったように、燦ぱれすでも健康系の取り組みが有るということ考えた。一緒になることによってより高度な展開ができるのではないかと議論した。現在、急激に非生産年齢が増えており、ここに来るのは、勤労者よりも地域の住民かもしれない。15年経つ時には、いよいよ本格的な人口減少社会、それも極端に減少する社会がきてしまう。その先まだ、20年も使われる施設を計画している。わざわざ合築することによってどういう意味があるかということである。勤労者の福祉から市民全体の福祉につながっているのか、ほんとに市民のニーズがどこにあり、どうするのが理想か徹底的に議論することが重要である。

委員：作品保全の面からは管理の目が行き届く空間の方が望ましいのは事実だが、例えば、京都国際写真祭の方式はどうか。古い蔵やお店、お城の一部を利用し作品が展示され、来訪者は徒歩や自転車で会場を巡る。運動によって細胞が活性化され感度が高まり、作品から多くの刺激を受けることができ人気である。新しい施設を作るだけでなく、すでにある文化財や家なども利用し、行政による信頼度の高い広報宣伝を行えば、訪れる人が増え活性化につながるかもしれない。新市民体育センターでの運動と芸術の相乗効果により心身の健やかさが高まることを願う。

委員：展示コーナーは建物の目玉であり、彦根がやっていることをアピールできる場所でもある。キュレーターがいると活かせる企画ができるが、市民にただ貸し出すだけでは、逆に寂れた印象しか与えないと思う。良い活用方法を、

運営も含めて考えていくべきではないか。

委員長： 展示コーナーと多目的会議室の一体化とあったが、交流ストリートや全体をどう活かすか考えてはどうか。体育館が使われていない日には、そこで大きなアートをすることも出来る。一番近くにある県立大学の芸術の学生を巻き込んで取り組める街になると南彦根が非常に良い場所になってくるのではないか。

委員： 先ほどから文化や勤労者のことが議論されてきたが、体育施設においても、スポーツ施設は大きければ大きいほうが良いという意見がある中で、調整し一定こうした形となってきた。いまだに意見は出ており、要望のすべてを取り入れているわけではない。調整をしてきているということを理解していただきたい。

教育部長： 展示コーナーは囲われていないため、あくまでもロビー展示が良いのではないか。文化芸術に関しては、市全体として、できるだけ早い段階で文化振興方針を確実に定めることを考えている。彦根の文化や芸術がどうあるべきか、その中で色々な繋がりを考えていくことになると思うので、様々な議論があるかと思うが、理解いただきたい。

委員： この施設の最大の目玉は、イベント時だけでなく、普段、市民がふらっと来れるような、人と人が交流するような普段使いの街中の施設である。それが他とは違う第一の特徴であり、施設の目玉としていかに作り上げていくのか、魅せる場所としてどういった効果があるのか、具体的に示されたほうが良いのではないか。

## (2) 立面計画について

委員： 他の施設と比べても、太陽光は 30kw が適切と考えている。太陽光発電自体コストがかかるが、公共施設において省エネや災害の観点から、何キロであっても載せるべきであると考えている。特別委員会では、災害時を考えると少しでも大きいものを載せて欲しいという意見があったので、今後、30kw に限らず 40kw、50kw も含めて検討していきたい。

委員長： 検討委員会として、30kw が良いという意見はなく、むしろ災害時を考えたほうが良いのではないかという意見があったと理解している。

委員： 資料5だが、基本はガスで災害時のリスク分散を考えて一部電気を採用し、コスト的にはほぼ同等になる範囲を選んだと認識してよいか。外部仕上げは GRC を見込んでいるのか。

コンサル： 外装はコストを含めて検討しており、二階部分で一部 GRC を、押出成形セメント(ECP)板も場所ごとに分けて貼っている。一回はコンクリートをベースとした外装としている。

- 委員：コスト第一だと思うが、あまり安っぽいものにならないようお願いしたい。最近、鉄骨のコストが非常に高く、県の新生美術館が不調に終わったこともあるので、ある程度概算を業者に依頼し、精度の高いものを取られたほうが良い。平面図に柱があまり書かれていない。壁なども含めて、構造の情報を反映した基本設計としてまとめていただきたい。
- 委員：フロアは、フローリングを採用されることは妥当だと思うが、車いすバスケットボールやチェアラグビーなど車いすの転倒でフロアがかなり傷つくことがある。記載のようにメンテナンスで対応していくということで承知したいと思うが、後々、フロアが痛むので使用禁止にするということは間違ってもないようにしていただきたい。弓道場においても、障害者の方に対応出来るよう配慮していただけたらと思う。
- 委員：交流棟はこれから高齢者の利用が多く見込まれるため、初めて来られた方への親切な対応として、大きく分かりやすいインフォメーションパネルを設置し、戸惑うことのないよう配慮いただきたい。
- 委員長：勤労者福祉とスポーツ、文化のあり方について議論はよろしいか。設備に関して確認するが、太陽光については了解いただけた。空調ガス熱源についても、災害復旧のことを考え配置されているということでよろしいか。地域の住民の方の避難所としても有効に機能するという方針であった。フローリングも費用対効果の議論があるが、大倉委員何かあるか。
- 委員：フロア管理はある程度ライフサイクルコストを考慮していただきたい。定期的なメンテナンスが必要であり、劣化すると、今年、学校の体育館で重篤な事故が発生した事案もあった。フロアは半永久的に使えるわけではないので、定期的なコストを含めた情報が重要ではないかと思う。
- 委員：文化芸術をされる方にも様々なレベルがあるので、下のレベルから中級ぐらいまでの方をここで受け入れることが出来ればと思う。更に高いレベルの方は、教育部長からあったように、新しい計画の中でしっかりとした展示場を作ってもらい受け入れていただく。まさに彦根は歴史と文化を標榜する都市として作っていただければと思う。多目的会議室は、融通が利くのであれば、一定レベルの作品展であれば、作品の管理が可能なので良いのではないか。展示コーナーはオープンスペースのため、管理が行き届かなくても支障の軽いものならできるのではないか。
- 委員長：大都市で合併した市町村の役場や公民館を廃止するとすると、高齢者の文化活動の場がなくなるため問題となる。廃止縮小した後、末端であった文化活動を同じレベルで維持することは難しくなる。燦ばれずに彦根市全体の文化活動が集まるのであれば、支援する活動や担う役割から施設整備を考えておくほうが良い。重要なポイントは県立大や滋賀大の学生と地域の文化活動を

されている方の交流が広がることである。もう少し学生の参加を進めるような方向が検討出来ないか。陶器委員どうか。

委員：ソフト面で参画できることがあれば、是非させていただきたい。みんなで盛り上げていかないと継続できない。

委員長：文化施設の一部を学生に優先的に開放するなど、学生が寄ってくれるような仕掛けがあればよい。京都府立大で行っているように文化活動をする学生が常駐することで、近所の子供たちの宿題をみたり、地域の高齢者から聞き取りをして郷土史を作ったりすることで、交流活動の場が生まれる。南彦根駅を利用する学生が集まり、先生と一つの作品を作るといった動きになれば一番理想的である。勤労者福祉から住民の福祉として使える場に変遷し、さらに交流という要素が加わると良い。

委員：小学校や中学校の若い方の力みなぎる作品を拝見したい。

委員長：積極的に誘致していただきたい。日本の地方都市は日中郊外空間を歩いている人が非常に少ない。しかし、交流ストリートは、散歩に来てベンチに座っていたら、朝晩は子供たちの通学姿がよく見られ、高校生や大学生が運動に来るといった状況があれば駅前以上に賑わうかもしれない。

委員：その活動が見えるところが展示コーナーである。交流ストリートを通れば真正面に活動が見える。あまり閉鎖しないほうがいい。ここで行われている活動を人々に見せる場所になれば良いと思う。

委員長：大学生にここで展示してもらうのも良い。京都府立大の近くに歴彩館があるが、その1階ロビーに府立大の環境デザイン学科の学生の作品を展示してほしいという依頼をいただく。華道や茶道の野点など様々な依頼が来る。地域に貢献するということから、そうしたプログラムを織り込むと良い。駅から大学までの通り道でしかなかった地域社会に対して愛着も沸くのではないか。地域の方との交流も生まれると、南彦根も一層よくなる。

委員：高齢者と県大生と一緒に活動できると、大学生から機動力や労力の支援が望める。高齢者は様々なつながりを持っているので、相乗効果によってより一層賑わうだろう。

委員長：よろしいか。では、本件に関する質疑、議論はこれで終了する。本日いただいた意見も含めて事務局で整理していただき、次回には基本設計書（案）として提示していただきたい。第5回検討委員会を終了する。

事務局：次回は、11月9日午前10時から、本日と同じ会場、大学サテライト・プラザ彦根で開催させていただきたい。

以上